

# 平和祈念展

in 滋賀



抑留者が飢えに耐えかね、  
袖の部分をパンド  
交換した防寒外套



滋賀県の方から寄贈された、  
満州（現 中国東北部）から日本に引き揚げる時に  
母親が娘のために作ったワンピース

※所蔵先の記載がないものは平和祈念展示資料館所蔵

2023年

9月12日(火) ~ 18日(月)祝

開場時間 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

入場無料



Shiga Museum of Art

滋賀県立美術館

ギャラリー

[滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1]

主催：平和祈念展示資料館（総務省委託）

後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、大津市、大津市教育委員会

協力：滋賀県平和祈念館、滋賀県立美術館

## 特別展示

「滋賀県ゆかりの戦争資料」

協力：滋賀県平和祈念館

滋賀県守山市出身の陸軍士官が  
ビルマ（現・ミャンマー）で  
着用した衣類  
（滋賀県平和祈念館 所蔵）



## 絵画展示

「鎮魂 画家宮崎静夫が描いた  
満州開拓・シベリア抑留」

《異国の丘》



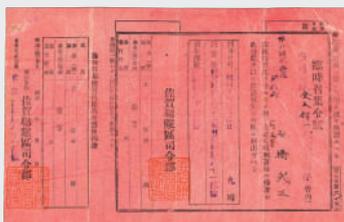
# in 滋賀 平和祈念展

平和祈念展示資料館（東京都新宿区）は、さきの大戦における兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者の労苦について多くの方に知っていただくため、全国各地で展示会を開催しています。

「平和祈念展 in 滋賀」では当資料館の代表的な資料を展示するほか、滋賀県に関連する戦争資料や、満蒙開拓青少年義勇軍に入り、終戦後は抑留生活を体験した画家・宮崎静夫氏の作品を紹介します。

## 兵士

国のために家族を残して戦地に向かい、命をかけて戦い、苦しくつらい体験をされた方々です。



臨時召集令状（赤紙）

## 戦後強制抑留者

戦争が終わったにもかかわらず、シベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの寒さが厳しい地域において、わずかな食べ物と劣悪な環境の中で、過酷な労働に従事させられた方々です。



滋賀県宛での抑留者の俘虜用郵便葉書

## 海外からの引揚者

敗戦によって生活のすべてをなくし、命さえ危険な状況で、必死の思いで日本に戻ってこられた方々です。



満州から日本へ引き揚げる途上で母娘が背負ったリュックサック

## 特別展示

### 「滋賀県ゆかりの戦争資料」

協力：滋賀県平和祈念館

滋賀県出身者の戦争体験にまつわる資料を滋賀県平和祈念館より借用し展示します。

捕虜収容所で支給された防寒着（滋賀県平和祈念館 所蔵）



## 絵画展示

### 「鎮魂 画家・宮崎静夫が描いた満州開拓・シベリア抑留」

画家・宮崎静夫は昭和2（1927）年に熊本県に生まれました。14歳で満蒙開拓青少年義勇軍に入り、17歳で関東軍に入隊、終戦後は4年間の抑留生活を体験しました。帰国後は戦友たちへの鎮魂をテーマにした作品を描き続けました。



《父と子の1942年》

※所蔵先の記載がないものは平和祈念展示資料館所蔵

## イベント

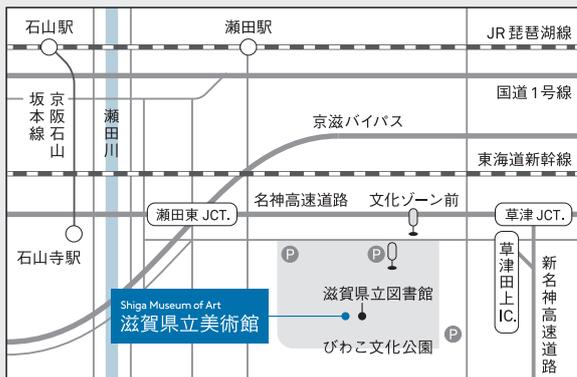
予約不要・参加者には記念品を進呈

## ギャラリートーク

学芸員が展示解説を行います。  
9月17日（日）、18日（月・祝）  
各日11:00～/14:00～（約40分）

## クイズラリー

会場を回って展示資料にまつわるクイズを解いていきます。  
開催期間中は、いつでもご参加いただけます。



## 会場：滋賀県立美術館 ギャラリー

滋賀県大津市瀬田南大萱町1740-1

電車・バスをご利用の場合

- 1 JR琵琶湖線瀬田駅下車
- 2 帝産バス「大学病院行」に乗り「県立図書館・美術館前」または「文化ゾーン前」で下車（便によって停まるバス停が異なります）、バス停より徒歩約5分

お車をご利用の場合

- 1 新名神高速道路草津田上インターを下り約5分
- 2 びわこ文化公園の駐車場（無料・3カ所）から徒歩約5分

※歩行が困難な方は、東駐車場のゲートから美術館エントランス前専用駐車場まで乗り入れができます。

